

高病原性鳥インフルエンザから アイガモを守るために



平成 20 年 10 月

社団法人 全国家畜畜産物衛生指導協会

高病原性鳥インフルエンザからアイガモを守るために

アイガモ飼育の一般的な注意

- ① アイガモの糞は水分が多いので、敷料を頻繁に交換し、体が常に乾燥しているように気をつけましょう（写真1、2）。
- ② 体調不良や栄養不足になると羽毛に汚れがみられてきますので、毎日の観察が重要です。元気なアイガモはよく動き、羽繕いした羽毛がとてもきれいです。表面は汚れていても、羽毛の奥がきれいならば大丈夫です。
- ③ アイガモの世話の後は、手洗いやうがいをしましょう。



(写真1)
新しい敷料で飼われているアイガモ。



(写真2)
水飲み場の下を網にすると敷料が濡れにくくなる。

アイガモと高病原性鳥インフルエンザ

- ① 高病原性鳥インフルエンザは、鳥インフルエンザウイルスの中でも、特に病気を起こす力が強い種類のウイルスにより起こる病気です。
- ② 高病原性鳥インフルエンザウイルスは、この病気の発生地域からカモなどの渡り鳥によって持ち込まれ、これらの糞などを介して様々な種類の野鳥や野生動物にうつり、感染が拡大していきます。
- ③ 鶏はこのウイルスに感染すると、多くの場合、餌を食べなくなったり、羽毛を逆立てたりして、高率に死亡しますが、アイガモの場合は、症状が様々で、発病しないものも少なくありません（写真）。
- ④ アイガモが症状を示さない場合でも、ウイルスは体内で増え、糞中に排泄されるため、これが汚染源となって次々と感染を広げてしまいます。
- ⑤ アイガモが高病原性鳥インフルエンザウイルスにかかった場合は、法律に基づいて、最寄りの家畜保健衛生所に連絡しましょう。

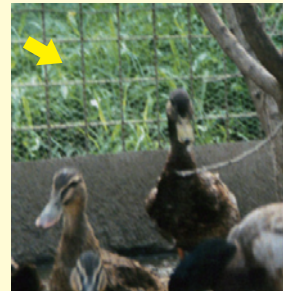


(写真)
上：9日齢の正常アヒル。
下：3日齢アヒルに高病原性鳥インフルエンザウイルス山口株を接種し、6日後の9日齢で死亡したアヒル。

高病原性鳥インフルエンザからアイガモを守るためのポイント

飼育時の留意点

- ① アイガモの飼育場所(小屋)での飲み水は、野生のカモなどが飛来する池や川からの取水を避け、衛生的な水道水や井戸水を与え、餌も動物の糞で汚染されていないものを給与しましょう。
- ② 「羽毛がひどく汚れていないか」、「動きが鈍くないか」、「他よりも目立って小さくないか」など、毎日アイガモをしっかり観察しましょう。
- ③ ひなの導入時や放し飼いから舎内での飼い直し時など、アイガモの導入の前・後には飼育場所を消毒しましょう。
- ④ 飼育場所では専用の長靴と作業服を着用しましょう。長靴は逆性石けん等で消毒し、床や飼育場所周囲には定期的に消石灰を撒きましょう。
- ⑤ 飼育場所には金網やネットを張り(写真)、穴などがあれば補修します。
- ⑥ ウイルスの持ち込みを防ぐため、鶏やアイガモを飼育している人を飼育場所に入れないようにしましょう。



(写真)
目の細かい網(矢印)を張って、野鳥との接触を避ける。

放し飼いや「冬越し飼育」での留意点

- ① ネットや電気牧柵で囲って、カラスや野生のカモなどの野鳥やネズミなどの野生動物との接触を避けるようにしましょう。また、これらの繁殖場所をなくすために周辺を整備しましょう。
- ② 近くで高病原性鳥インフルエンザが発生した場合は、放し飼いを中断し、屋根のある飼育場所に避難させましょう。
- ③ アイガモは、秋に出荷するのが最善です。やむをえず冬越しさせる場合は、冬に飛来する野生のカモと接触させないようにしましょう。
- ④ アイガモは、症状を示さなくても高病原性鳥インフルエンザウイルスを保有していることがありますので、感染を拡大しやすくする鶏とは一緒に飼わないようにしましょう。

○不健康あるいは死亡したアイガモはすぐに群から除いて下さい。
アイガモの様子がいつもと違うと感じた時は、次の家畜保健衛生所、市町村役場あるいは、動物病院へ連絡して下さい。

① お近くの家畜保健衛生所

② 地元の市町村役場

③ お近くの動物病院

（高病原性鳥インフルエンザ発生防止のため、アイガモを飼う時は野生のカモ
その他の野鳥やネズミなどの野生動物、鶏と接触しないようにしましょう。）

社団法人全国家畜畜産物衛生指導協会

〒113-0034 東京都文京区湯島 3-20-9 緬羊会館内
TEL 03(3833)3861 FAX 03(3833)3864